今年は地盤固める年

業界深耕、意識・行動改革進める

コフロック社長　小島 望氏

―半導体製造装置や半導体製造の付帯装置、分析機向けなどに展開する流体計測制御機器の足元の状況と展望は。

「昨年の半導体業界は動きがある企業とそうでない企業、円安の恩恵を受けるところ、中国事業で苦戦するところなど、まだら模様だった。2026年も堅調は堅調で、右肩上がりのトレンドは続くと思うが、爆発的に上向くということはないのかなと感じる。その中で当社は付帯設備向けを中心とするが、新規で取り組む製造装置向けで少しずつ実績がついてきたので、さらに攻勢を強めていく」

―窒素や酸素などのガス発生装置は。

「事業規模として一段高いステージに上がり、顧客ニーズを製品がしっかり捉えている。持続可能な開発目標（SDGs）や脱炭素といった観点に加え、エネルギー価格や物流費が上昇する中でコストを抑えたいというニーズも高い。装置のメンテナンスサービスも戦略的に強化しており、新たな柱となりつつある」

―26年の重点施策は。

「営業、生産、開発のいずれも地盤を固める年にしたい。流体計測制御機器の営業は業界深耕がテーマ。25年に露呈した不足点を克服すべく、顧客や顧客製品の動向を深く知り、意識改革と行動改革を進める。生産はスループット改善。このほか、デジタル変革（DX）で間接業務をいかに減らし、直接業務に取り組むかで、従来の発想や考え方に疑問符をつけていく。開発は限られたリソースで根本を仕上げていくほか、人材確保やアライアンスに注力する」

無断転載・複写禁止㈱日刊工業新聞社